

ASC 基準について

ASC (Aquaculture Stewardship Council: 水産養殖管理協議会) とは環境に負担をかけず地域社会に配慮して操業している養殖業に対する国際的な認証制度のことです。

私達は ASC 基準に基づき、持続可能で社会的責任のある養殖に取り組んでいます。



自然環境と野生生物への影響について

持続可能な養殖を行うには自然環境の維持が不可欠と考えています。私達の今別養殖場は環境保護区及び国立公園内に位置していませんが、自然環境と野生動物へ配慮し、影響が最小限となるように努めています。野生動物の殺駆除は行わない事、海洋哺乳類に影響がある音響退避装置を使用しない事を約束し、野生動物の偶発的な死亡が発生した場合には調査・対策を行い再発防止します。

	期間	野生生物死亡件数	備考
今別漁場	2017年11月~2018年7月	0件	
今別漁場	2018年11月~2019年7月	0件	
今別漁場	2019年11月~2020年7月	0件	
今別漁場	2020年11月~2021年7月	0件	
今別漁場	2021年11月~2022年7月	0件	
今別漁場	2022年11月~2023年7月	0件	
今別漁場	2023年11月~2024年2月	0件	

種苗の遺伝子組み替えについて

遺伝子組み換え魚は野生個体群に対する影響が不明のため、私達の養殖場では導入しておりません。

寄生虫について

天然のサケマスが回遊、生息する地域においては病害虫の伝播が懸念されます。

特にサケジラミについては常にモニタリングを行い、動向の把握が不可欠です。

本養殖場では一ヶ月に1度全ての生簀について魚を取り上げ測定しており、この際にサケジラミの有無についても確認しています。

又、野生種（サクラマス）の降海、離岸時期4月～5月は水揚げを行なっている為、この期間については週に一度水揚げした個体について確認を実施予定です。

※暫定基準値(10匹/100尾)

※サケジラミの駆虫薬は、サケジラミの被害がほぼ無い為、現状では使用しておりません。

	調査日	生簀番号	サンプル数(尾)	サケジラミ数	割合(匹数/100尾)
1	2024/1/28	I-1-4, I-1-7	1840	0	0
2	2024/3/1	I-1-2, I-1-3	1396	0	0
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					

昨シーズン（2023年）は野生種の水揚げはありませんでした。

今期シーズンは引き続きモニタリング中です。

2023年度の活け込み尾数と水揚げ尾数の差について

活け込み時と水揚げ時の尾数カウントは2%以内である手法により行っています。

カウント誤差を差し引いた水揚げ尾数の差は-2.4%(21285尾)となりました。

これは悪天候時に回収出来なかった斃死魚の尾数と推測しています。